

発行/モザイク会議 議長 情野良夫 tel:080-1260-7972

モザイク会議事務局：〒185-0012 東京都国分寺市本町 4-12-4 司アートシティ 104

モザイク会議ホームページ：http://www.maa-jp.com/ Email:maaj@maa-jp.com

編集/作成：モザイク会議運営委員会

## 平成 29 年度総会開催

於・4月23日(日) 国分寺のモザイク会議事務局

出席者数 17名、委任状 10通

### 新議長決定!!!

仙台の東北生活文化大学教授の**森敏美**君にお願いすることになりました。

情野良夫君には5年間議長を務めてもらいました。ありがとうございました。

運営委員は引き続き岩田英雅、小田いくこ、桜井真知子、上昇平、喜井豊治  
フェイスブック管理者として張未怜が新しく担当することになりました。

また9月のモザイク展の審査員として、前回もお願いした美術ジャーナリスト  
の村田真氏のほかに美術手帖編集長の岩淵貞哉氏にお願いすることに決まりました。  
森新議長と岩淵氏の紹介は次ページで。

### そのほかの議決事項

- モザイク会議の入会金を無料にすること。
- あざみ野展の図録に使う写真は出品者に用意してもらうこと。
- 今年の展覧会の図録はモザイク会議の負担で作成、無料で配布する。
- 陶磁器フェスティバルの参加企画のモザイクベンチの製作は橋村元弘氏を中心に行うこと。
- 出席者にはズマルト一袋ずつをプレゼントした
- 海外作家展に出品してもらったアメリカのモザイク作家リン・チンの出品作品のオークションが行われた。

会計報告は会員に別紙で同封します。

## モザイク展 2017 新審査員、岩渕貞哉氏の紹介

モザイク展 2017 では審査員を 2 名に増やしました。一人は前回もお願いした村田真さん。二人目は岩渕貞哉さんが引き受けてくださることになりました。



### 岩渕貞哉

『美術手帖』編集長。

1975 年横浜市生まれ。1999 年慶応義塾大学経済学部卒業。

2002 年美術出版社『美術手帖』編集部に入社後、

2007 年に同誌副編集長、2008 年より現職。

美術出版社執行役員。2017 年、ウェブ版『美術手帖』、

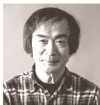
展覧会情報サイト『ART NAVI EX』をオープン。

トークイベントの出演や公募展の審査員など、幅広い場面で

現代のアートシーンに関わる。

## モザイク会議新議長・森敏美君の紹介

森敏美君はモザイク会議の創設会員で、現在は仙台にある東北生活文化大学の教授をしています。とくに壁画についての指導をしています。教え子には幸野聖子、平田恵利子、櫻井真智子、張永怡、落合香木など会員に名前を連ねている人も多くいます。



### 森敏美

1954 年 3 月生まれ

1981 年東京藝術大学大学院壁画研究室修了。同研究室助手勤務

1984 年 4 月より現在まで東北生活文化大学生活美術学科勤務

宮城県芸術協会絵画部運営委員 美術解剖学会理事

1995 年からモザイク会議会員

## モザイク展 20 周年を迎え今後のモザイク会議に思うもの

鎌倉での国際モザイク展が 1994 年に開催され、翌 95 年に日本でモザイク会議が発足し、2 年後の 1997 年に第 1 回モザイク展を皮切りに隔年で開催し、大きな展示会は隔年で、間に小規模の有志での展示会も開催してきました。

歴代の議長はモザイクのスペシャリストの面々が顔を連ね、忙しい最中会の運営にご尽力頂きましたが、当然創設期からのメンバーも年を重ね、会の高齢化も余儀されない状況になり、会員数の減少も気になるところで。この現象はモザイク会議に限らず、日本全体の問題でもあります。美術界でも、特に絵画離れが加速化しているようです。絵を描く事に関心がある人が減ったわけではないのですが、油画とか伝統的な描画方法より、コピック(マーカーの一種)やペンタブでの描画、すなわちマンガ、イラスト、アニメ等のサブカル系が魅力的なのか若い人を中心に移行しているようです。

また、モザイク、フレスコ、ステンドグラス、テンペラ等の古典技法に関心有る人は少なからず居るようですが、インフラや、啓蒙活動が弱い為なかなか根付きません。

教える人の絶対数が少ない上、美術教育機関での取り組み、特に美術大学系での扱いはせいぜい集中講義レベル。年間通してカリキュラムに組み込んでいる所はきわめて少ないのが現状です。

日本画同様、古典技法はやってみればそれなりに魅力ある技法だと分かるのですが、指導者も少ないこともあり、後ろ盾がない壁画等のジャンルは積極的に啓蒙活動を行っていかないと、本当に絶滅機種となってしまいます。モザイク会議の会員はその面白さ、魅力を十分に知っているはずなので伝道師として社会に関わる資格は充分にあると思います。もともと、会の創設期は会員の発表の機会を設ける、会員の相互コミュニケーションと、社会への啓蒙活動を謳っていたので初心を確認出来ればと思います。

まずは地道な活動として、展示会等、人が集まる機会にワークショップ等の啓蒙活動(モザイク会議の宣伝を兼ねる)を行うこと。小中学校、社会人、高齢者対象の出席講座やワークショップを定期的にアピールし行うことを会の方針として社会貢献の一環で取り組むことを推奨いたします。

## 私の近況報告

最近、特に震災以降ボランティア活動、社会とのアートコミュニケーション的な活動が増えています。

自己の表現と社会との連携は別個のようであり根源は繋がっているように感じています。幼稚園児から小学生、中学生、高齢者の方々との関わりが毎年続いています。

最近では、沿岸部で津波の被害にあった中野小学校のモザイクモニュメント制作プロジェクト。子どもたちと原画制作からモザイク制作にも関わってもらい、コンクリートの流し込み体験、モニュメント設置に至るまで様々なシーンで一緒に体験いたしました。

昨年从今年に掛けては市内の障がい者支援施設の外壁モザイクの制作設置を学生らと行いました。二回に分けられて制作設置で、5月15日に2回目の設置が行われます。

現在は4月に開園した市内の保育所(日本で初めての公園内に設置した保育園)の外壁にモザイクを設置するプロジェクトが進行中です。これは地域にある中学校の美術部の生徒達に、保育園に設置する意図とモザイクのレクチャーを行い、原画を描いてもらい、それを大学の学生がそれぞれ選び(壁画の授業として取り組み)モザイクに仕上げ設置するというプロジェクトです。

途中中学校の生徒達にモザイク制作にも関わってもらい、設備の楽しみ関心を高めて来永く自分たちの関わったモザイクに愛着を抱いてもらえればと思います。因みにこのプロジェクトには、保育園のある地域の町内会や商店の皆さんが資金援助もしてくださり、保育園、地域、中学校、大学、学生と様々な人々の協力で成り立つものです。

6月には4回目となる「取っ替え・ひっ替え・すり替え展」を市内ギャラリー(SARP)

で行います。これは、僕が描いた作品或いは要素があるパネル等を渡し、自由に描いて貰い、場合によっては書き加える。逆に教員や学生、卒業生らが描いた作品(エスキース含む)や書きかけのものを預かり、手を加える。そういったものを展示します。個展の様なグループ展の様な不思議なアートマリアージュというか、アートの化学変化が見られます。

人の作品に手を入れたり、入れられるのは抵抗がありますが、タブー的なものを排除することも新しい発見に繋がることと思ひ、継続しています。

以上、私の近況でした。次は9月の個展とモザイク展です！

# 国際陶磁器フェスティバル美濃'17(多治見市)参加のモザイクベンチデザイン決定!!

ベンチデザインは「食べ物」をテーマにすることで決まりました。応募人数は4名と低調でした。  
若田英雅、喜井登治、横村元弘のデザインから4点が選ばれました。6月末から制作を開始します。

## 【スケジュール】

### ●第1回目の制作 6月30日(金)～7月2日(日)

会場・山梨県都留市のアトリエハシムラ(住所・山梨県都留市盛里72-1 電話0554-45-4292)

作業内容・ベンチ4点の土台作製

必要人数・男性のみ5名程度(力仕事のため)日程の一部参加でもOK

### ●第2回目の制作 7月7日(金)～7月10日(月)

会場・アトリエハシムラ

作業内容・ベンチのモザイク制作

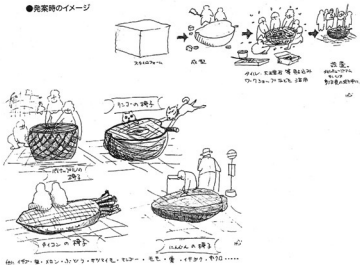
必要人数・7名程度(男女問わず。日程の一部参加でもOK)

以上2回の制作会場を設定しました。宿泊は現地で用意しています。無料です。交通費、食費は自前ですが、後日補助金が出る予定です。

最寄り駅は富士急行禾生(かせい)駅です。制作場所までの移動については参加者の都合に合わせて調整します。  
参加希望者は横村元弘(電話、0554-45-4292 メール、ah-m@hasimura.net)まで連絡し、移動方法について相談してください。

1. 星物等の断面をモザイクで造る。
2. 断面を見せるだけでなく、実物として利用出来るようにする。
3. 子供の教育にも利用されるし、見たも面白い。

## ●発案時のイメージ

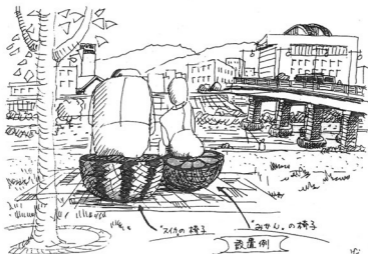


絵: 伊藤・敏・中川・ふじやま・サトウチキ・エドナカ・花見・重・イダナリ、等20.....

■タイルの椅子 喜井案「バナナ」



■タイルの椅子 岩田案「スイカ・みかん」



## 国際陶磁器フェスティバル美濃'17

「土と炎の国際交流 From You, From Now, From Here.」

日本を代表する陶産地「美濃」で開催されるトリエンナーレ。国際規模の陶磁器コンペティション「国際陶磁器展美濃」を中心に、陶磁器の産業と文化に寄与する様々な事業が展開される「世界最大級の陶磁器の祭典」です。

「美濃」を舞台に、全国、そして世界へ広がる一大プロジェクトです。

2017年9月15日(金)～2017年10月22日(日)【38日間】

会場：多治見市・土岐市・瑞浪市 / メイン会場：セラミックパークMINO

主催：国際陶磁器フェスティバル美濃実行委員会

<http://www.icfmino.com>

【国際陶磁器フェスティバル美濃実行委員会】

〒507-0801 岐阜県多治見市東町4-2-5

セラミックパークMINO内

TEL:0572-25-4111 / FAX:0572-25-4138

土と炎の国際交流

INTERNATIONAL CERAMICS FESTIVAL  
MINO JAPAN

2017.9.15. FRI  
→ 10.22. SUN

CERAMIC VALLEY  
MINO  
JAPAN

国際陶磁器フェスティバル美濃'17  
INTERNATIONAL CERAMICS FESTIVAL'17 MINO, JAPAN

## 新入会員のお知らせ

髙 聖希子(アオ アキコ)

〒492-8401 愛知県稲沢市梅須賀町1601-1

tel.0587-36-2627

日本の大学で鉄の彫刻を専攻した後、先史ギリシャ美術を研究するためギリシャへ渡る。

現地ではギリシャ正教会装飾イコンモザイクを製作。

現在は日本でアトリエエゴ主宰。受注制作の他、個展やグループ展参加をコツコツと。

